

## 立川シティハーフマラソン 2023

### 【出場結果】

実施日 : 3月12日(日)

コース : 日本陸上競技連盟公認コース・WA 認証コース

陸上自衛隊立川駐屯地、国営昭和記念公園及びその周辺道路

出場者 : 小林 航央 関口 大樹 田中 龍誠 坪井 響己

リザルト:

|     | 小林                  | 坪井            | 関口             | 田中             |
|-----|---------------------|---------------|----------------|----------------|
| タイム | 1:04'33"<br>セカンドベスト | 1:04'40"      | 1:07'17"       | 1:08'56"       |
| 順位  | 優勝/5,500名(定員)       | 2位/5,500名(定員) | 18位/5,500名(定員) | 37位/5,500名(定員) |

### 【レポート】

チームとしては、今年度の最終レースとなる立川シティハーフマラソンに4名の選手が出場しました。本大会は、第23回日本学生ハーフマラソン選手権大会が併催して行われ、箱根駅伝で活躍した多くの学生が出場しており、勢いのある学生ランナーの力を借りながら走ることが出来るため、体調不良から復帰したばかりの田中以外は、記録の更新を狙ってレースに臨みました。



多くの学生ランナーと集団でレースを進める坪井

コース前半は陸上自衛隊立川駐屯地内および近隣の市道でフラットなコースですが、12km過ぎからは昭和記念公園内の細かなアップダウンが控えており、序盤に突っ込み過ぎると後半に失速を招くため、ペース配分が重要なウェイトを占めるコースと言えます。

坪井、小林は入りの5kmを15分切、関口は15分30秒で通過し、練習の位置付けで出場している田中は16分台でレースを進めました。



坪井、小林ともに1 km 3分ペースを確実に刻む

10 kmの通過は小林、坪井ともに30分ペース、関口は31分ペースで通過し、記録を狙うにはまずまずのペースでレースを進めると、細かな起伏のある昭和記念公園内に入り、ここからの走りがタイム・順位ともに大きく左右することとなります。



ラスト1 kmで意地のスパートをみせる小林

公園内に入ると記録を狙う3選手ともに、1 kmあたりのラップを3~5秒ほど落としながらも15キロ地点では坪井が小林を15秒ほど引き離す走りで、学生以外のランナーでは最上位に位置し、そのまま逃げ切るかと思われましたが、スピードランナーの小林が最後の1 kmで意地を見せ、坪井との距離を一気に縮めると、そのまま抜き去り1時間4分33秒のセカンドベストで優勝を決めるゴール、坪井は7秒遅れの2位となる1時間4分40秒でゴールしました。

15 km地点迄は1時間5分台を狙える走りをしてきた関口は、16 km地点で脚が攣ってしまうアクシデントに見舞われ、ラスト5 kmから大きくペースダウンし、1時間7分17秒でゴールし、体調不良からの復帰レースで練習の一環として出場した田中は終始1 km 3分20秒切りのペースを守り切り1時間8分56秒でのゴールとなりました。



レースが続き、疲れのある中でも力のある走りを見せる坪井



脚が攣るアクシデントに見舞われ、後半は苦しい走りとなった関口



体調不良からの復帰レースとなった田中



ワンツーフィニッシュ！！おめでとう！！！！

## 【総評】

当社にとって今年度の最終レースでしたが、小林、坪井が自己ベストを更新することは叶わなかったものの、ワンツーフィニッシュでゴールし、チームとして最高の形で今年度を締め括ることが出来ました。

途中アクシデントがあり失速を余儀なくされた関口は、来年度に向けて課題を残したレースとなりましたが、しっかりと課題を克服してチーム力の底上げを担って欲しいところです。

今年度は一年の最大のチーム目標に掲げる東日本実業団対抗駅伝競走大会では、結果を残すことが出来ず悔しい想いをしましたが、駅伝以降のトラックレース、ロードレースでは多くの選手が、自己ベストや入社後のベストを更新しており、来年度の活動に勢いをつけてくれました。

来年度は一名の新人を加え、選手9名の体制で新たに活動をスタートさせますが、少数精鋭のチームらしく、選手・スタッフが丸となって活動を盛り上げていきたいと考えております。

来年度も応援頂ける皆さまに、元気をお届け出来るような活動を目指して参りますので、引き続き温かいご声援を宜しくお願い致します。

以上